

東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター

定時制・通信制高校生の貧困

Working Paper Series Vol.27

阿部 彩

2022年7月29日

この Working Paper の内容は著者によるものであり、当センターおよび東京都立大学の見解を反映したものではありません。なお、一部といえども無断で引用、再録することを禁じます。

子ども・若者貧困研究センター



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

定時制・通信制高校生の貧困：

「東京都子供の生活実態調査から」

阿部 彩¹

1. はじめに

日本の高校教育において定時制・通信制高校は小さいながら一定のプレゼンスを保っている。文部科学省(2020)によると、定時制・通信制課程の高校に通う生徒は、それぞれ 2.4%、5.9%であり、合わせると全高校生の 8.3%となる。高校生の 12 人に1人が定時制・通信制高校に通っており、決して少ない数値ではない。定時制高校の歴史は古く、1948 年に働く青少年に教育機関を確保する目的をもって設立された(文部科学省 2020)。しかし、その後、通学する生徒が多様化し、勤労のため全日制の高校に通えない子どもだけでなく、全日制学校からの退学者など、さまざまな背景を持つ子どもを受け入れる場となってきた(片岡 1983; 青戸・村瀬 2012; 加藤 2017)。近年は、勤労する生徒は少なくなり、定時制高校生の半数は無職であり、働いている生徒もアルバイト等の非正規雇用が殆どである(全国高等学校定時制通信制教育振興会 2018)。また、通信制高校は、近年は増加の傾向にあるが(文部科学省 2020)、公立のものや民間のもの、全日制高校の年齢や中年・高齢層などが入り混じっており、その実態は不透明なところが多い。

一方で、定時制・通信制高校における中退率の高さや、ひとり親世帯の多さ、不登校経験の多さなどは、子どもの貧困の議論における貧困層が抱える問題と重なる部分が多い(全国高等学校定時制通信制教育振興会 2018)。しかしながら、定時制・通信制高校の生徒の貧困の実態は、明らかになっておらず、そのため、子どもの貧困対策の議論においても定時制・通信制高校の生徒はその対象と認識されていないところがある。

そこで、本稿においては、2016 年「東京都子供の生活実態調査」(以下、本調査)を用いて、定時制・通信制の高校の生徒の貧困の実態を明らかにする。本調査は、東京都内の4つの市区(豊島区、墨田区、日野市、調布市)において小学5年生、中学2年生、高校2年生の年齢層とその保護者を対象に住民基本台帳から全数調査を行ったものである。本稿では、その中から高校2年生年齢の子どもと保護者のデータを用いる。高校2年生年齢のサンプル数は、2,576 票(子ども票と保護者票がマッチできたもの)である。分析においては、その中で、全日制、定時制、通信制の高校に通っている高校生のデータを分析対象(n=全日制 2,370 票、定時制 60 票、通信制 67 票、計 2,497 票)とする。定時制・通信制の高校生のサンプルが比較的少ないが、定時制・通信制の施生徒と全日制高校の生徒と比較できる貴重なデータであり、一定の示唆を得ることができると考えられる。

¹ 東京都立大学人文科学研究科 教授 兼 子ども・若者貧困研究センター長

2. 定時制高校・通信制高校の現状

学校基本調査によると、定時制高校は639校、通信制高校は235校であり、全体の11.4%、4.5%となっている(令和元年時点、文部科学省 2020)。生徒数から見ると、定時制高校に通う高校生は81,935人(全体の2.4%)、通信制高校に通う生徒は197,696人(同、5.9%)であり、合わせると約28万人、全高校生の約8.3%となっている。定時制高校の生徒数は、昭和28(1953)年にはピークの56.7万人を記録したが、第二次世界大戦後は急減し、平成に入ってから15.2万人(平成元(1989)年)から緩やかに減少して、現在の約8万人となっている。逆に、通信制高校の生徒数は、昭和23年の0.9万人から昭和時代に急増し、平成に入ってから増加を続けている(図表1)。

<図表1>

昭和の末期にいたるまで、定時制・通信制課程の生徒の殆どは就労していたが、平成に入ってから生徒の就労状況は大きく変化している。平成28年に文部科学省が全国高等学校定時制通信制教育振興会に委託して行った定時制高校471校、通信制高校120校へのアンケート調査によると、定時制課程の生徒の約半数(50.8%)は無職、働いている生徒においても「パート等」が殆ど(46.2%)であり、正社員として働いているのは2.2%に過ぎない(全国高等学校定時制通信制教育振興会 2018)。通信制課程の生徒は、年齢が高い生徒も存在するため、正社員の割合が若干多くなる(狭域通信制8.3%、広域通信制6.3%)が、両課程ともに無職の生徒が過半数を占める(Ibid.)。困難を経験してきた生徒の割合も多く、不登校経験があるのは39.1%、非行経験は7.7%、外国とつながりのある生徒は6.6%、心療内科等の通院歴があるのは9.2%、特別な支援が必要な生徒は20.1%となっている(図表2)(Ibid.)。

<図表2>

学校から貧困世帯の生徒へ提供される支援として、食の支援としての給食、そして、相談機能としてのスクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーに着目する。まず、給食については、上記全国高等学校定時制通信制教育振興会による調査によると、「夜間定時制課程を除き殆ど実施されていないのが普通」(Ibid.)であり、定時制全体では48.4%が「完全給食」、19.0%が「軽食または牛乳のみ」となっている。しかし、この数値は学校数で見たものであり、より正確と考えられる文部科学省「給食実施状況調査」(平成30年)によると、夜間定時制高等学校では全国約7.6万人の生徒に対し、完全給食が実施されているのは24.6%(学校数で見ると52.6%)、補食給食は4.4%(同、15.2%)であり、合わせて29.1%の生徒にしか給食が提供されていない(文部科学省 2019)。

スクール・カウンセラーについては、定時制では81%、狭域通信制では73.2%、広域通信制では74.4%にて配置されているが、常勤であるのは全体で1.2%のみであり、それ以外は月1から8回といった勤務体系であった。また、より貧困世帯への支援を担うことが期待されているスクール・ソーシ

ャル・ワーカーについては、定時制では 77.4%、狭域通信制では 82.3%、広域通信制では 85.8%が配置しておらず、また、配置している学校においても月に1回から 8 回といった非常勤が殆どであった(Ibid.)。

3. 先行研究

定時制高校に通う生徒の生活実態や健康状況を、全日制高校に通う生徒と比較して論じた研究は 1960 年代、1970 年代においては盛んに行われたようである(千葉 1958)。千葉(1958)は、東京都内の定時制高校の生徒に対する身体測定、血圧、肺活量、視力、運動能の測定、血液検査、栄養調査、疾病調査を行っており、定時制高校生は全日制生徒に比べ「背が低く胴が長い」という体型の特徴があること、肺活量や視力が低い傾向があること、軽度の貧血傾向者が多数存在すること、女子では低栄養の状況にあること、自覚症状が多いことなどを報告している。また、千葉(1958)は、定時制高校生徒の夕食摂取時間の不定期さや遅さなど生活問題も指摘し、「長時間にわたる空腹や、夜ふけての摂食は相応身体に悪影響を及ぼしている」(p.122)としている。しかし、この時点の定時制高校生徒は 83%が就労(文部科学省 2020)、70%が家計の補助のために働いており(千葉 1958)、近年の定時制高校の生徒の状況への示唆とはならないであろう。

松下(1969)は、ある都市の定時制高校の女子生徒 70 名を対象とした栄養調査を行っており、蛋白質、志望、ビタミン B1、熱量において定時制高校生の方が全日制生徒よりも低く、しかも、栄養所要量以下であること、食品群別摂取状況では、動物性食品の摂取量が全日制より少なく、野菜類が多いこと、身長においては全日制生徒に比べ有意に低いこと、夕食の時間が遅く、自由時間・勉強時間が全日制生徒の半分にも満たないことを報告している。

片岡(1983)は、大阪府と福井県の公立定時制高校4校の卒業生を対象とした調査を行っており、定時制高校の生徒の出身階層や職業達成が年代と共にどのように変化してきたのかを明らかにしている。それによると、昭和 27～31 年卒の第一期から昭和 50～54 年卒の第四期にかけて、定時制高校の生徒は経済的に余裕があるものが増えてきたものの依然として経済的に厳しい層が多いこと、同時に学力が低い層の受け皿としての機能が大きくなってきたことを挙げている。また、親の職業階層から抜け出すことができるかという階層開放性の観点から、定時制高校は開放への機能をもっていたが「維持期(注:昭和 28-40 年)以降の定時制高校は、職業達成において出身階層の制約から解放する力を低下させ、父親の職業と同じ職種カテゴリーにとどまるものが増えた」(p.169)と結論づけている。

近年のデータとしては、加藤(2017)が 2014 年に行った埼玉県の夜間定時制課程の生徒 179 名を対象に行った調査がある。調査では、夜間定時制高校生への食育の介入が、生徒らの食物摂取状況や食に関する知識の改善に効果があるのかを計っている。しかしながら、報告されているサンプルが介入前後のデータがあるものに限られているため、夜間定時制課程の生徒全体の栄養状況や健康状態、全日制の生徒との比較などは行われていない。

健康以外のウェル・ビーイングとしては、渡邊ら(2018)の研究においては、定時制高校の生徒は、全日制の生徒に比べ、「学校適応感」「日常生活スキル」「友人との関係」が低い傾向があるこ

とを見出している。松井・阿形(2014)は、ある県の定時制高校 22 校の生徒 2,861 名の質問紙調査のデータから、定時制高校生の就寝時刻、起床時刻、朝食、就労状況、友人の数、入学経緯や、学校の良さや魅力などを明らかにし、定時制高校生の中で不登校の経験があるものとないものの差を明らかにした。

このように定時制・通信制高校の生徒を対象とした研究は多数ではないものの存在する。しかし、これらの先行研究において、定時制・通信制高校の生徒のウェル・ビーイングが低い要因の一つとして示唆されながらも、正面から論じられていないのが、家庭の貧困問題である。貧困は、定時制・通信制高校の生徒に多いとされるひとり親世帯や、不登校とも密接な関連があることが多くの研究から明らかになっている。貧困に不随するさまざまな生活問題、養育問題の存在を匂わせながらも、彼らの貧困に起因する生活問題・養育問題そのものについては分析がなされていない。この理由は、これら先行研究においては、親の経済状況や家庭内の生活困難など親から得ることができる情報が欠如していることがあろう。

そこで、本稿では、高校生本人およびその保護者に対する質問紙調査のデータを用いて、定時制・通信制高校の生徒本人と彼らの家庭の生活困難の実態を、全日制高校の生徒との比較の中から明らかにし、彼らおよび彼らの家庭における貧困の現状を探る。その上で、定時制・通信制高校の生徒に対してどのような支援が必要なのかを検討する。

4. データと手法

本稿で用いるデータは、東京都から首都大学東京(現 東京都立大学)が受託して行った「東京都子供の生活実態調査」(2016)である。本調査は、東京都内の4市区の小学5年生、中学2年生、高校2年生の年齢の子どもとその保護者を住民基本台帳から抽出し、郵送配布・回収法により悉皆調査を行ったものである。回収率は、本研究が用いる高校2年生年齢(16-17歳)では4X.X%(本人票)であった。本研究では、高校2年生年齢(16-17歳)の回収票(n=2,576)から、「高等学校(全日制)」「高等学校(定時制)」「高等学校(通信制)」に通っている子ども(全日制 2,370票、定時制 60票、通信制 67票、計 2,497票)を分析対象とした。定時制、通信制高校の生徒の割合は、それぞれ 2.4%、2.7%であり、日本全国の定時制・通信制高校生の割合(2.4%、5.9%)と比較すると、定時制高校生はほぼ同率、通信制高校生は低い率となっている。

なお、分析から省かれる票は、特別支援学校、高等専門学校、専修学校の生徒、高校中退者、就学状況不明、就労しているの子どもが含まれる。ここでは、全日制と定時制・通信制の生徒の違いを見るため、これらの票は分析対象としないこととした。

分析には、学校タイプ(全日制、定時制、通信制)と各変数のクロス集計を χ^2 分析を用いて統計的有意差の有無をみた。また、全日制と定時制・通信制の生徒の差が家庭の経済状況のみに起因するものかの示唆を得るために、全日制の中の経済状況が厳しい層と定時制・通信制の生徒の差も検証する。経済状況の判定には、生活困難度(阿部2018)を用いる。生活困難度は、家庭の低所得(等価世帯所得が貧困基準以下)、家計の逼迫(食料・衣服が金銭的な理由で買えなかった経験、電気・電話・ガス・水道・家賃・その他債務の滞納も行け)、子どもの所有物・体験の欠

如(所有物の欠如、海水浴、BBQなどの経験の欠如)の三つの軸から構成され、二つ以上の軸に該当する場合を困窮層、一つの軸に該当する場合を周辺層、どの軸にも該当しない場合を一般層とする指標である。

5. 結果

1) 家庭の状況

まず、貧困を表す指標として生活困難度(阿部 2018)を用いて、定時制・通信制高校生の家庭と、全日制高校生の家庭の状況を比較したものが図表3である。生活困難度を見ると、全日制の高校生は、困窮層が4.9%であるのに対し、定時制は16.7%、通信制は11.9%となっている。定時制においては、困窮層と周辺層を合わせた生活困難層が38.4%と4割近くになっている。欠損を除いた中では約半数となる。世帯タイプは、どの学校タイプにおいても一番多いのはふたり親(二世帯)世帯であるが、その割合は全日制の方が、定時制・通信制より高かった。定時制では、ひとり親(二世帯)、通信制では三世帯世帯が多いのが特徴である。全日制の困窮層との比較においても、有意差が確認された。

その他、家計の逼迫を表す各項目においても、全日制の生徒に比べ、定時制・通信制の生徒の家庭にその割合が高く統計的にも有意な差があった。これらの生活困難の項目が該当する割合は、特に定時制の生徒の家庭にて高かった。全日制の困窮層と比べると、食料の困窮、その他債務の滞納以外は有意差は確認されなかった。

<図表3>

2) 母親・父親の学歴・逆境経験

次に、母親・父親の学歴と保護者(保護者票の回答者)の15歳時点での暮らし向きと過去の逆境経験の有無について計算したものが図表4である。母親・父親の学歴は、世帯内に母親・父親が存在するサンプルに限って集計している。母親の学歴は、全日制では「短大・高専」、定時制・通信制では「高卒」が最も多い。「大卒以上」は、全日制では29.4%、通信制では26.2%、定時制では16.4%となっていた。なお、全日制の困窮層と定時制・通信制との差は見られなかった。父親の学歴では、全日制と通信制はともに約6割の父親が「大卒以上」であった。なお、母親・父親ともに全日制の困窮層と定時制・通信制との差は見られなかった。

保護者(回答者)の15歳時点での暮らし向きについては、「普通」が最も多いのは共通しているものの、「大変ゆとりがあった」は全日制・通信制に多く、「やや苦しかった」が定時制に多めであった。全日制の困窮層は、通信制と近い割合構成となっていた。

保護者自身が子ども期に経験した逆境経験については、「両親が離婚」が、定時制・通信制にて有意に多かった。また、少数ではあるものの、保護者自身が子ども期に親から「育児放棄された」も若干多かった。

保護者の現在の育児状況を見ると、「子どもに行き過ぎた体罰」を与えたと考えている親、「自殺

を考えてことがある」、「育児放棄になったことがある」親が、定時制・通信制にて有意に多かった。

<図表4>

3) 母親の健康状況

次に、母親の健康状況を見た(図表5)。健康状況は、父親と母親では異なると考えられるため集計は母親に限っている。主観的健康感では全日制では「よい」、定時制・通信制では「あまりよくない」が多かった。なお、全日制困窮層との差は見られなかった。抑うつ傾向をK6指標で測定したところ、抑うつ傾向ありと判断されるK6得点が13ポイント以上の割合は、定時制>通信制>全日製の順に高かった。定時制・通信制では、母親の1割以上が抑うつ得点が高いこととなる。

<図表5>

4) 生徒の食生活

ここからは高校生自身の状況について集計する(図表6)。まず、高校生の食生活について、毎日の食事の回数を聞いたところ、「ほぼ毎日3食」は全日制では87.9%、定時制では58.3%、通信制では61.2%となっていた。定時制・通信制の生徒たちは3食を食さない割合が高い。この差は、一般層を困窮層に限っても同様であった。また、食品群別の食べる頻度については、「動物性たんぱく質」については、有意差がなかったが、「野菜」「植物性タンパク質」「果物」「乳製品」については、有意差が見られ、全日製の生徒たちの方が、定時制・通信制の生徒よりも毎日食べている割合が多かった。この差は、全日製の生徒を困窮層に限っても確認できた。

<図表6>

5) 生徒の生活

次に、生徒の日常生活について集計した(図表7)。兄弟姉妹の世話や祖父母の介護に費やす時間について、毎日1時間以上と答えた割合は、全日制は7.6%、定時制は11.7%、通信制は4.5%であった。いわゆるヤング・ケアラーは定義が難しいが、相当数の高校生が何らかの家族のケアをしていることがわかった。全日制困窮層と定時制・通信制の生徒との割合の差もわずかながら認められた。また、さまざまな生活の必需品についてそれらの有無(「持ちたいが持てない」の回答。本人の選好によりもっていない人を除く)は、殆どの項目で、全日制と定時制・通信制との有意差が確認された。また、全日制困窮層との比較においては、「靴」「友人と遊びに出かけるお金」「自分に投資するお金」にて有意差が確認された。睡眠時間については、「8時間以上」睡眠をとっているのは、定時制・通信制の生徒にて多い。

<図表7>

6) 生徒の健康状況

生徒の健康状態については、本人に5つの選択肢で自分の健康について聞いたところ、全日制の生徒は43.1%が「よい」と答えたのに対し、定時制・通信制では2割強しか「よい」と答えなかった。全日制困窮層と比べても同様に有意差が認められた。また、本人に「必要な時に医者にかかることができるか」「必要な時に歯医者にかかることができるか」を聞いたところ、殆どが「いつでもできる」と答えているものの、全日制は1.5%が「経済的理由」、10.6%が「その他の理由」によって「できないことがある」と答えており、この割合は、定時制の生徒では3.3%、20.0%と2倍以上、通信制でも4.5%と14.9%が「できない」と答えた(歯医者ではこれよりさらに悪い結果)。全日制困窮性とは有意差はなかった。

<図表8>

7) 生徒の精神的ウェル・ビーイング

最後に生徒の精神的ウェル・ビーイングについて集計した(図表9)。K6指標が13以上の割合は、全日制では10.9%、定時制では21.1%、通信制では30.3%と、特に通信制の生徒において悪いことがわかった。全日制困窮層では11.59%であるので、定時制・通信制の高校生の抑うつ傾向は悪く、通信制は特に懸念される。また、自己肯定感を表す指標として、「頑張ればむくわれる」などについて、「とてもそう思う」から「思わない」まで4段階で聞いたところ、「そう思わない」と否定的な回答をしたのは、全日制の生徒よりも定時制・通信制の生徒の方が悪く、定時制と比べても、通信制の生徒の状況が悪かった。「あなたはどの程度幸せですか」と「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点としたスケールで聞いたところ、全日制の生徒の平均は8.2(95%CI.8.15-8.32)、定時制は7.4(95%CI.6.76-7.94)、通信制は7.2(95%CI.6.56-7.76)と全日制の生徒の方が幸せと感じていることがわかった。これらの結果は、全日制を困窮層に限っても、ほぼ同じであった。

<図表9>

6. 考察

先行研究が示すように、定時制・通信制の生徒は、全日制高校の生徒に比べ、生活困窮、食生活、生活必需品の所有率、健康状況において、悪い状況であることが改めて確認された。これらが、本データのように比較的サンプル数が少ないデータにおいても統計的に有意に確認されたことをは意義があると言えよう。近年、定時制・通信制の生徒は、かつての「勤労生徒」といった貧困であるからゆえに就労せざるを得ないといった背景から、より広範のバックグラウンドを持つ生徒層となったとされるが、2016年時点の定時制・通信制の生徒においては経済問題が大きな影を落としていると言えよう。1980年代のデータを用いた片岡(1983)は、当時の定時制高校の生徒像が「経済的に余裕はあるが学力は低い者」あるいは「経済的余裕もあまりなく、学力も低いもの」(p.163)

になったと述べているが、本データでは定時制においては生活困難層の方が一般層よりも多いといった結果であった。家庭内の生活問題として、食料の困窮や、公共料金・債務の滞納が特に定時制高校の生徒の家庭にて多く見られた。また、既に、1950年代に千葉(1958)が指摘をしている健康格差についても、主観的健康感や精神的健康(抑うつ傾向)にて格差が確認された。特に、通信制の生徒において、抑うつ傾向が高い子どもが多い(K6 \geq 13が30.3%)ことは憂慮すべきであろう。本稿の分析から、政策提言を掲げるのであれば、スクール・カウンセラーの配置と給食の提供が、定時制・通信制高校に強く求められることであろう。

さらに、本稿では、定時制・通信制の生徒の親の出身階層について垣間見ることができた。保護者の「15歳時点での暮らし向き」では、定時制高校の生徒の保護者は「やや苦しかった」「大変苦しかった」が多いことが確認される(ただし通信制では確認されなかった)。また、保護者自身が15歳までに「両親が離婚」「育児放棄された」といった逆境経験を持つ割合が多いこと、学歴で見ると父親・母親ともに大卒が少なく、高卒が多いこと(定時制のみ)が確認された。片岡(1983)による定時制高校生徒の出身階層を親の職業分類で見た分析では、昭和27年から50年にかけて、生徒の親が「下層ブルーカラー」である割合は増えている。本稿では、学歴と逆境経験、暮らし向きから出身階層を推測するしかないが、全日制高校の生徒の出身階層に比べ低い傾向があることは確かであろう。

今後の課題として、よりサンプルの多いデータを用いて、定時制・通信制の高校生の貧困の実態を解析することが求められる。本稿はその糸口という意味で意義があると言ってもよいであろう。また、本稿においては、データの制約から、さまざまな通信制高校の種類別に分析することができなかった。通信制高校は、大きく分けて狭域通信制と広域通信制があり、その内容は大きく異なり、一緒に分析することは望ましいことではない。これらを乗り越えることができるデータの構築が強く望まれる。

【参考文献】

- 片岡栄美(1983)「教育機会の拡大と定時制高校の変容」『教育社会学研究』第38集, p.158-171.
- 加藤 耕平(2017)「夜間定時制課程の高校生における食生活の実態把握と給食の時間を活用した栄養教育のプロセス評価」『栄養学雑誌』75巻4号, p. 120-130.
- 全国高等学校定時制通信制教育振興会(2018)『定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究』
https://www.mext.go.jp/content/20210219-mxt_koukou01-000010291_04.pdf アクセス日 2022/7/22.
- 千葉裕典(1958)「定時制高等学校生徒の生活と健康に関する研究」『民族衛生』第24巻第3号, p.112-128.
- 松井幸太・阿形恒秀(2014)「不登校経験のある定時制・通信制高校生の生活実態調査—不登校経験者と非経験者との比較より—」『学校メンタルヘルス』Vol.17.No.1, p.60-72.
- 松下紀美子(1969)「定時制高等学校生徒の栄養調査」『家政学雑誌』Vol.19No.3, p.181-187.

文部科学省(2019)「平成30年度学校給食実施状況等調査の結果について」(報道発表
2019/2/26)

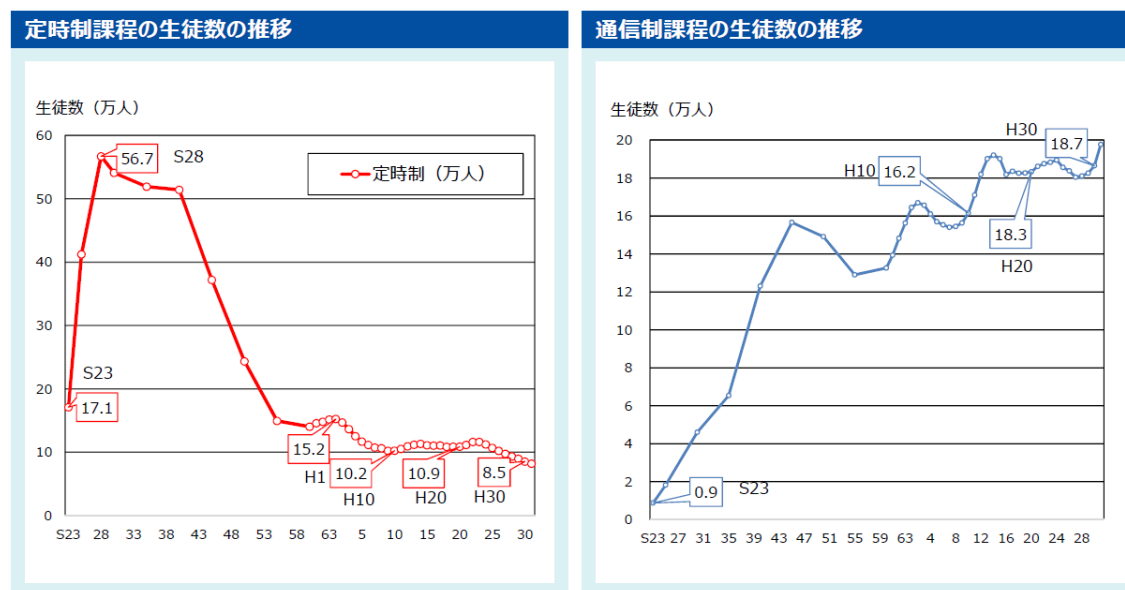
https://www.mext.go.jp/content/1413836_001_001.pdf アクセス日 2022/7/22

文部科学省(2020)「定時制課程・通信制課程の現状について」高校WG(第7回)資料 3-2、

https://www.mext.go.jp/content/20200522-mxt_koukou02-000007159_32.pdf アクセス日
2022/7/22.

渡邊仁・太田正義・飯田昭人・加藤弘道(2018)「定時制高校における学校への適応の検討について—全日制高校との比較から—」日本教育心理学会第60回総会発表資料、pG61.

図表1 定時制・通信制課程の生徒数の推移



出所: 文部科学省(2020) 元データ 文部科学省「学校基本統計調査」

図表2 定時制・通信制高校生のうち困難がある生徒の割合

	定時制	狭域通信制	広域通信制
小中学校及び前籍校における不登校経験	39.1%	48.9%	66.7%
外国とつながりがある生徒	6.6%	2.8%	2.4%
保護者が両親以外の生徒(未成年)	2.9%	1.2%	1.6%
非行経験を有する生徒	7.7%	2.1%	4.1%
特別な支援を必要とする生徒	20.1%	11.8%	3.0%
学習障害の診断がある生徒	3.8%	4.6%	3.4%
心療内科等に通院歴のある生徒	9.2%	11.0%	4.8%
療育手帳・障害者手帳等を取得している生徒	2.9%	3.3%	1.3%
ひとり親家庭の生徒	36.9%	26.9%	18.7%

出所: 全国高等学校定時制通信制教育振興会(2018)

図表3 家庭の状況								
			(単位%)			(単位%)		
	全日制	定時制	通信制	χ^2 値		全日制困窮層	χ^2 値	
	(n=2370)	(n=60)	(n=67)			(n=643)		
生活困難度								
困窮層	4.9	16.7	11.9	29.83	***			
周辺層	13.0	21.7	13.4					
一般層	59.9	38.3	50.8					
欠損	22.3	23.3	23.9					
世帯タイプ								
ふたり親 (二世帯)	74.6	60.0	58.2	31.68	***	64.1	13.89	***
ふたり親 (三世帯)	8.9	5.0	14.6			7.0		
ひとり親 (二世帯)	11.7	28.3	13.4			17.9		
ひとり親 (三世帯)	3.1	5.0	6.0			5.8		
欠損	1.7	1.7	6.0			5.3		
食料の困窮								
よくあった	0.4	1.7	3.1	73.74	***	1.5	15.67	**
ときどきあった	2.1	10.2	9.2			6.1		
まれにあった	5.8	22.0	12.3			9.4		
まったくない	90.7	64.4	75.4			79.5		
無回答	1.0	1.7	0.0			3.6		
衣服の困窮								
よくあった	1.4	5.1	4.6	39.51	***	5.0	4.36	
ときどきあった	2.6	10.2	6.2			7.8		
まれにあった	9.6	22.0	15.4			14.4		
まったくない	85.3	61.0	72.3			69.6		
無回答	1.2	1.7	1.5			3.2		
料金・債務の滞納 (「あった」の割合)								
電話	2.5	13.6	7.7	30.19	***	7.8	2.43	
電気	2.6	11.9	7.7	23.00	***	8.1	1.05	
ガス	2.3	11.9	4.6	21.38	***	7.4	2.39	
水道	2.5	13.6	4.6	26.26	***	7.6	3.67	
家賃	1.8	6.8	6.2	13.46	***	5.3	0.27	
住宅	1.3	3.4	1.5	1.83		2.9	0.48	
その他債務	4.1	18.6	4.6	29.07	***	8.6	8.36	**

図表4 母親・父親の学歴・逆境経験								
	(単位%)			χ^2 値	(単位%)			
	全日制	定時制	通信制		全日制(困難層)			
母親の学歴	(n=2295)	(n=55)	(n=61)			(n=597)		
中卒	1.5	5.5	8.2	39.28	***	2.7	12.84	X
高卒	23.0	43.6	32.8			30.5		
短大・高専	44.8	32.7	31.2			42.4		
大卒以上	29.4	16.4	26.2			21.8		
無回答	1.3	1.8	1.6			2.7		
父親の学歴	(n=2015)	(n=43)	(n=52)					
中卒	3.2	11.6	11.5	34.92	***	4.5	11.86	X
高卒	18.4	25.6	19.2			21.5		
短大・高専	14.8	16.3	11.5			16.6		
大卒以上	61.6	41.9	57.7			52.7		
無回答	1.9	4.7	0.0			4.7		
保護者の15歳時点の暮らし向き	(n=2295)	(n=59)	(n=65)			(n=619)		
大変ゆとりがあった	8.9	0.0	10.8	20.88	***	11.5	17.00	*
ややゆとり	14.8	17.0	6.2			12.9		
普通	52.6	47.5	55.4			49.6		
やや苦しかった	16.7	27.1	15.4			15.0		
大変苦しかった	5.5	6.8	6.2			7.3		
	1.6	1.7	6.2			3.7		
保護者の逆境経験	(n=2370)	(n=60)	(n=67)					
1 両親が離婚	5.2	10.2	13.9	11.28	***	5.0	9.66	***
2 親が生活保護	0.9	3.4	1.5	3.95		0.8	3.51	
3 母親死亡	1.3	0.0	0.0	1.61		1.6	2.03	
4 父親死亡	3.6	3.4	0.0	2.41		3.2	2.18	
5 親から暴力	4.0	8.5	6.2	3.53		4.0	2.83	
6 育児放棄された	0.8	3.4	3.1	8.10	**	0.5	8.35	**
保護者の現在の育児	(n=2370)	(n=60)	(n=67)					
1 配偶者からの暴力	6.3	11.9	9.2	3.81		9.1	0.51	
2 子どもに行き過ぎた体罰	6.4	15.3	15.4	14.95	***	5.7	14.33	***
3 育児放棄になった時期がある	1.1	3.4	3.1	4.76	*	2.1	0.60	
4 出産育児でうつ病になった時期がある	7.8	10.2	7.7	0.43		10.0	0.37	
5 子を虐待しているのかと悩んだ	8.8	8.5	12.3	0.99		10.8	0.49	
6 自殺を考えたことがある	5.7	10.2	12.3	6.90	**	7.6	2.06	

図表5 母親の健康状況							
				(単位%)		(単位%)	
		全日制	定時制	通信制		全日制困窮層	
		(n=1952)	(n=41)	(n=48)		(n=643)	
主観的健康感							
	よい	36.7	22.0	33.3	16.32 *	33.1	8.21 X
	まあよい	9.4	17.1	4.2		11.0	
	ふつう	43.1	46.3	45.8		42.6	
	あまりよくない	7.6	12.2	16.7		11.3	
	よくない	0.6	0.0	0.0		0.9	
	欠損	0.6	2.4	0.0		1.1	
抑うつ傾向		(n=2296)	(n=57)	(n=66)			
	K6 < 13	94.9	87.5	89.4	6.7328	91.5	0.90
	K6 ≥ 13	5.1	12.5	10.6	**	8.5	X

図表 6 生徒の食生活		(単位%)			(単位%)				
		全日制	定時制	通信制	χ^2 値	全日制困窮層			
		(n=2370)	(n=60)	(n=67)		(n=643)			
食事の回数									
ほぼ毎日 3 食	87.9	58.3	61.2	89.16	***	86.6	62.74	***	
ほぼ毎日 2 食	10.9	40.0	35.8			11.4			
ほぼ毎日 1 食	0.6	1.7	3.0			0.6			
欠損	0.6	0.0	0.0			1.4			
以下の食品群を毎日食べる割合									
1 動物性タンパク質、	95.7	91.7	92.5	3.76		94.3	0.87		
2 野菜	89.4	71.7	80.6	22.82	***	87.3	12.11	***	
3 植物性タンパク質、	73.8	46.7	64.2	24.44	***	70.3	14.53	***	
4 果物	46.6	20.0	32.8	21.25	***	42.8	13.47	***	
5 乳製品	68.9	41.7	59.7	22.13	***	64.9	12.86	***	

図表7 生徒の生活								
		(単位%)					(単位%)	
		全日制	定時制	通信制			全日制困窮層	
		(n=2370)	(n=60)	(n=67)			(n=643)	
兄弟姉妹の世話や祖父母の介護に費やす時間								
毎日1時間以上	7.6	11.7	4.5	19.26 ***		6.07	10.75 *	
1週間に1～5日	7.4	8.3	16.4			7.93		
全然しない	83.2	73.3	74.6			82.58		
欠損	1.8	6.7	4.5			3.43		
以下の物品を「持ちたいが持てない」割合								
新しい(お古でない)洋服	1.7	5.0	0.0	4.99	*	2.34	3.46	
最低2足のサイズの合った靴	1.3	11.7	0.0	42.88	***	2.5	18.12	
冬用のダウンジャケット・コート	2.2	8.5	4.6	10.92	***	3.13	4.53	
自分専用のふとん又はベッド	1.9	1.7	3.0	0.43		3.13	0.4	
家の中で勉強ができる場所	3.5	10.0	6.0	7.82	**	6.08	1.43	
インターネットにつながるパソコン	16.8	28.8	13.6	6.47	**	18.65	4.98	
電子辞書	12.1	25.9	19.4	12.53	***	14.65	5.66	
自分の部屋	17.0	23.3	20.9	2.28		21	0.18	
月5000ほどの自分で自由に使えるお金	18.1	22.0	17.9	0.61		23.35	1.04	
スマートフォン	3.5	5.2	6.0	1.55		2.96	2.28	
友人と遊びに出かけるお金	8.0	21.7	13.4	16.39	***	11.16	5.76	
自分に投資するお金	19.2	36.4	35.5	19.47	***	22.68	9.22	
睡眠								
8時間以上	6.6	25.0	22.4	69.34	***	6.84	50.28	
7時間	24.5	30.0	20.9					23.64
6時間	49.4	26.7	34.3					47.9
5時間	14.3	13.3	9.0					15.4
4時間以下	4.6	5.0	13.4					5.13
欠損	0.6	0.0	0.0					1.09

図表8 生徒の健康状況						
			(単位%)		(単位%)	
	全日制	定時制	通信制		全日制困窮層	
	(n=2370)	(n=60)	(n=67)		(n=643)	
主観的健康感						
よい	43.1	21.7	22.4	53.77 ***	40.6	36.64 ***
まあよい	11.6	13.3	11.9		11.5	
ふつう	39.7	53.3	44.8		41.2	
あまりよくない	4.6	11.7	16.4		5.0	
よくない	0.6	0.0	4.5		0.8	
欠損	0.4	0.0	0.0		0.9	
必要な時に医者にかかることができるか						
いつでもできる	82.8	70.0	76.1	13.49 *	80.4	8.23
できないことがある(経済的理由)	1.5	3.3	4.5		2.8	
できないことがある(その他の理由)	10.6	20.0	14.9		11.2	
必要はない	4.6	6.7	4.5		4.0	
欠損	0.6	0.0	0.0		1.6	
必要な時に歯医者にかかることができるか						
いつでもできる	81.9	75.0	80.6	23.33 ***	78.4	11.28
できないことがある(経済的理由)	0.8	6.7	1.5		1.4	
できないことがある(その他の理由)	10.2	13.3	10.5		11.7	
必要はない	6.4	5.0	7.5		6.8	
欠損	0.8	0.0	0.0		1.7	

図表9 生徒の精神的ウェル・ビーイング								
	全日制	定時制	通信制					
抑うつ傾向	(n=2296)	(n=57)	(n=66)					
K6<13	89.1	79.0	69.7	28.48		88.41	19.80	
K6≥13	10.9	21.1	30.3	***		11.59	***	
以下について「そう思わない」割合					chi2			
a 頑張ればむくわれる	5.3	8.5	17.9	***	20.4	4.59	19.51	***
b 自分は価値のある人間だと思う	8.7	15.3	27.7	***	29.5	10.86	15.46	***
c 自分は家族に大切にされている	1.3	3.4	6.0	***	11.5	2.06	3.97	
d 自分は友人に好かれている	3.5	5.1	13.6	***	18.5	4.46	10.01	***
e 不安を感じることはない	20.6	32.2	28.4	**	6.8	19.4	7.56	**
f 孤独を感じることはない	11.2	22.0	31.3	***	31.0	12.12	20.76	***
g 自分の将来が楽しみだ	9.6	17.0	26.9	***	23.9	9.22	20.64	***
h 毎日の生活が楽しい	3.3	8.5	14.9	***	28.8	4.29	14.11	***
i 自分のことが好きだ	12.1	15.3	29.9	***	18.9	13.32	13.00	***
幸福度（0とても不幸～10とても幸せ）								
平均値	8.2	7.4	7.2			8.10		
(95% C.I.)	(8.15-8.32)	(6.76-7.94)	(6.56-7.76)			(7.93-8.27)		